

馬場ひでゆきの活動日誌

No.83

最後まであきらめない 松代病院を守る大集会

「病院に助けられた！」の声相次ぐ

11月15日、松代総合センターで「松代病院を守る大集会」が開催されました。

新潟県が松代病院を診療所にする条例案を12月議会に上程予定という切迫した状況下、緊急の呼びかけにもかかわらず、190名余の住民が参加しました。

●松代病院は「地域の宝」

集会では、松代病院の小堺浩一医師や看護師、職員が現場報告しました。小堺医師は、病院のベッドがあるからこそ、介護施設や福祉関係者とも連携し、住民一人一人の命と暮らしを守る事ができたと発言しました。

意見交換では、参加者が口々に「松代病院に命を助けてもらった」「松代病院に運ばれて意識不明の状態が10時間続いたが、懸命の看護で助かった。遠い所の病院に運ばれていたらダメだっただろう」と地域に病院があることの大切を訴えました。



牧田県議と私は、県議会に向けての決意表明、最後に「連帯して過疎地域の病院、地域医療を守り抜こう」とのアピールを満場の拍手で採択しました。地元で愛されてきた病院なんだなあとということを実感しました。私の発言は次のとおりです。

県の不誠実対応に怒る

◆無床診療所化の公表を先送り

県は、松代病院の無床診療所化の方針を、昨年の12月までに決定し、病院関係者に告知していました。しかし、住民に対しては、令和7年4月の十日町市長選挙の後に公表しました。無床診療所化が選挙の争点になることを避けたかったのでしょうか。住民無視、政治の都合だけを優先したもので許されません。

◆無床診療所化の論拠が破綻

県は、住民説明会などで「松代病院の患者は高齢者が多く、複数の慢性疾患を抱えて個人差が大きい、総合的・包括的医療ケアが必要であり、小規模病院より大規模な病院での対応が必要」と説明してきました。

これに対して、小堺医師は、今まで地元で築き上げた地域連携体制でスムーズな在宅復帰ができているとして明確に県の主張を否定しました。

真の原因が県の財政赤字の削減であるのに、それを隠して無床診療所化が住民の福利のため



会場は満員。参加者はどんどん増えて廊下まで溢れました。

とする県の説明が、欺瞞でしかないことが明確になりました。

◆「住民説明会の地元参加者は半分以上だった」と虚偽説明

県は、10月9日開催の魚沼圏地域医療構想調整会議で、「住民説明会では参加者の半分以上は地元の方ではなかった」と説明しました。これは、住民の反対が多くないという印象操作を目的としたものといえます。しかし、実際は地元住民がほとんどでした。当日は、参加者に住所、氏名を書かせて受け付けていたので、調べれば簡単にわかるはずですが。

その後、担当者は、県議会でも「名簿を確認しないでの発言だった」と謝罪しました。

◆最後まであきらめない！

計画を実現するためなら手段を選ばないという県の不誠実な態度が明らかになっています。当初から結論ありきで住民と向き合おうとせず、ウソをつきながら施策を進めるやり方には怒りを覚えます。道理は、松之山・松代の皆さんにあります。私も皆さんとともに頑張ります。

コーシ Break

日誌82「里山のふところ～」の
続き

この前は誌面の都合で書けな
かった和瀬田仙二さんのことを書
きます。和瀬田さんは、主役級で
このドキュメンタリーに登場しています。

私が和瀬田さんにお会いしたのは、3年前の県議
会議員選挙の頃でした。私の知人は、和瀬田さん
を「桑取の主(ぬし=リーダー)」だと言って紹介して
くれました。地元のリーダという、「オレがオレが」
みたいな人がいますが、和瀬田さんにはそれがな
いのです。しかも普通の人の話をよく聞いてくれる。
すごく魅かれます。その後、桑取や中ノ俣に行く
都度、お世話になってきました。

番組のナレーションで、和瀬田さんの「歩み」を初
めて知りました(本人から聞いたことなかった)。和
瀬田さんは今年85歳、桑取の農家の生まれで四男
坊。地元の中学校を卒業後すぐに東京の渋谷のハ
チ公のウラにある呉服店に丁稚奉公へ。実家は長
兄が継いだ、25歳で急死。親から戻ってきてほし
いと懇願されて、和瀬田さんは地元に戻り、地元で
生活してきました。地元の世話焼きをするのは、「戦
後、父親が戦争で男手をなくした家に行き、人助け
をしていたことを見ていた」からだといひます。

『里山のふところ～』は、11月29日の「第5回上
越☆農業映画祭」でも上映されます。皆さ
ん是非来てください。



里山の肝入り(世話焼き)
和瀬田 仙二さん

★**ゲームオーバーにはさせない**
花角知事は、12月議会に「原
発再稼働する場合に想定される
費用を盛り込んだ予算案」を提
出する予定です。知事は、この
予算案の可決をもって「県民か
らの信」を得たとして、原発再
稼働の問題を終わりにさせる魂
胆です。

★**人間の鎖で知事を取り囲め!**
知事は、8年前の知事選で
「再稼働の是非は県民に真を問
います」と呼びかけて当選を果
たしました。

議会の議決で終わらせること
は、明確な公約違反です。政治
家に対する信頼は地に堕ちます。
最後まであきらめません。県
庁を人間の鎖で包囲して、公約
を守れと訴えましょう。



集会の最後に間に合いました

11月1日、性的少数者の存在
を知らせ、多様な性のすべてを
認め尊重することを呼びかける
集いが開催され、オーレンプラ
ザから本町通りを行進するパレ
ードがされました。

私は、事務所の前で行進して
いた皆さんを激励、パレード後
の集会に参加しました。

上越プライドフェス

知事は公約を守れ
県民に**信を問え!**



人間の鎖で
新潟県庁 包囲しよう
県議会を

集合 11月25日(火) 昼
AM 11:00 県庁隣、自治会館1F 講堂
集会後AM 11:45 「人間の鎖」行動へ

柏崎刈羽原発再稼働の是非を
考える新潟県民ネットワーク 連絡先 ☎ 080-4668-4457



10月25日～11月8日

- 10月25日 久比岐高等学校閉校式
- 25日 上越国際交流協会創立30周年式典(デュオセレッソ)
- 30日 県議会 普通会計決算審査特別委員会
- 31日 県議会 普通会計決算審査特別委員会
- 11月1日 牧つこ秋まつり(牧コミュニティプラザ)
- 1日 上越プライドフェス(オーレンプラザ)
- 1日 あの頃の青春コンサート19th (オーレンプラザ)
- 3日 浄興寺de縁日(寺町浄興寺)
- 3日 石ころ展(関谷昌夫氏・大口満氏・津幡潔氏 大島画廊)
- 4日 県議会 普通会計決算審査特別委員会
- 5日 県議会 普通会計決算審査特別委員会
- 6日 県議会 普通会計決算審査特別委員会
- 7日 県議会 普通会計決算審査特別委員会

発行責任者: 馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田式番館2階
電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp

集会の意見交換では、某地方議員の秘書も「親父はほくほく線のトンネルの現場監督をしていた、生前、松代の人にはお世話になったと話していた」と嗚咽しながらの発言。熱い集会になりました。